

調査月日:2016(H28)/05/29(日) 晴れ

調査区間:上坊口～平笠不動小屋～山頂往復～焼走り口

調査等参加者:工藤、畑中、民部田、浪岡、阿部

〔メモ〕

文責:阿部丕顯

- ・ 今回の調査主眼は、次の4点である。
 - ① 上坊コースの歴史的遺物の現状確認
 - ② 登山道の残雪状況や危険個所の有無等確認
 - ③ コマクサ生育状況確認
 - ④ 登山道標識等の確認
- ・ 上坊コースはしっかり整備されており、信仰登山の道の雰囲気は漂う快適な道である。
- ・ 合目石柱は文政5年(1822)の建立だが、現在は1、4、5、6、7、8の各合目が失われており、今後補完的に標示する方法を検討したい。
(現存するのは、2、2.5、3、3.5、5.5、6、6.5、8.5の8本であった)
- ・ 登山道を覆う残雪区間はツルハシから平笠不動小屋周辺までの区間のところどころに約10～20m区間があり、残雪に埋伏した樹木が通行を妨げるが、滑落等の危険性は少ないと思われた。
- ・ コマクサについては、発生している株の2割程度に花茎も見られ、蕾を膨らませている個体も数株あった。間もなく開花が始まりそうである。
- ・ 登山道標識等については要所要所に整備され、距離も標示されているので適切である。

【コマクサ開花間近】



【岩手山神社遥拝所】



左手の鳥居が山頂方向(車道は別ルート)



鳥居脇の石碑
左:「岩手山神社」
右:「岩手山神社植林記念碑」



社殿



天保九年七月十日
の刻みがある
(天保9年:1838年)

【上坊口～ツルハシ間】



登山口:登山者名簿記帳箱 (標高約725m)
水場、トイレ無し 駐車スペース10台以上?



エゾハルゼミの大合唱シャワーを
浴びながらスタート



2合目付近(標高約970m)



「二合目」石標柱



ヒメコマツ林(標高約1,000m)



「二合五夕目」石標柱(標高約1,063m)



石祠(標高約1,085m)



標高約1,170m付近



3合目(標高約1,203m)



「三合目」石標柱と石祠



シラネアオイ咲く(標高約1,210m)



「三合五夕目」石標柱と誘導標「上坊1.9km、岩手山頂2.7km」(標高約1,305m)



標高約1,400m付近



木造階段(標高約1,430m)



「ツルハシ」標識柱「岩手山頂上2.3km、焼走り4.4km」(標高約1,460m)



【ツルハシ～山頂間】



標高約1,490m付近



標高約1,500m付近



木造階段(標高約1,520m付近)



標高約1,600m付近



ダケカンバ巨木 (標高約1,630m)



標識柱「岩手山頂上1.4km、ツルハシ0.9km」と石祠 (標高約1,640m)



シラネアオイが咲き誇る (標高約1,640m付近)



枝が邪魔 (標高約1,640m)



標高約1,650m付近



「五合五夕目」石標柱と石祠(標高約1,655m)



石柱には文政5年の彫 (文政5年: 1822年)



石標柱の彫を確認する (撮影: 工藤)



標高約1,690m付近



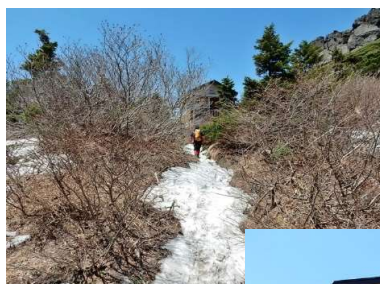
標高約1,720m付近、シラネアオイ咲く



「六合目」石標柱 (標高約1,732m)



標高約1,760m付近



平笠不動小屋付近



平笠不動小屋(標高約1,767m)



標識柱 「頂上0.8km、 ツルハシ1.5km」



「六合五夕目」石標柱(標高約1,765m)





平笠不動小屋から山頂へ向かう



お鉢の急登 (標高約1,900m付近)



「奉納」石標柱(標高約1,990m付近)



「八合五夕目」石標柱 (標高約2,002m付近)
文政五年(1822)の影がある



焼走りコース分岐標柱 (標高約2,005m付近)



標識柱「平笠不動0.8km」



山頂祠(標高2038m)



今回調査参加者 記念撮影



平笠不動小屋を背景に記念に1枚

【ツルハシ～焼走り口】



コマクサ群生地を観察
(標高約1,370m付近)



ダケカンバの進出が目立つ



第二噴出口跡標識柱
「岩手山頂上3.6km」
(標高約1,110m)



標識柱「岩手山頂上4.5km」
(標高約865m付近)



標識柱「岩手山頂6.0km」
(標高約615m付近)



焼走り口(標高約570m)